

令和5年度 事業報告書

社会福祉法人はなみずきの会

I 特別養護老人ホーム

1. 事業方針への対応

介護職員の人員不足により3月から4階フロアを封鎖せざるを得なくなり、12月から新規の受け入れ調整を行い、収支へも大きな影響を与えた。

新型コロナウイルスが5類感染症へと変更されたが、引き続き感染防止に最大限の対応を行い、施設内でのクラスター等は発生しなかった。

2. 重点課題への対応

(1) 毎月最終木曜に全部署参加の全体ミーティングを行い、課題の共有と対応方法の徹底を行った。

(2) 新型コロナウイルスは5類感染症へと変更されたが、引き続き家族の面会停止や入館時の検温及び手洗い・マスク着用など感染対策の徹底を行った。

3. 活動目標と実施内容

(1) 施設内研修を年8回開催した職員の資質向上に取り組んだが、対面式の研修が出来ず、研修の効果については限定的となった。

(2) 職場説明会への参加や人材紹介の活用などあらゆる手段を講じたが介護職員の欠員補充が進まず、結果として4階フロアの一時封鎖となり収支にも大きな影響を与えた。

(3) 病院・入所施設等も面会制限が多く待機者の情報収集が進まず、退所後の新規入所者受入れに大幅な遅れが生じた。

II ショートステイ

1. 事業方針への対応

緊急ショートステイの受入に配慮し、利用者及び家族の満足度向上に努めた。

長期利用希望者をロングショートステイとして受け入れベッドの回転率の向上に取り組んだが、職員不足により年度後半はショートステイ一時受け入れ中止に追い込まれた。

利用時には本人及び同居家族の健康状態を確認に加えて抗原検査を実施し、新型コロナウイルスの外部からの持ち込み防止を図った。

2. 重点課題への対応

- (1) 3月からのショートステイ一時受け入れ停止に伴い、12月後半から新規利用の制限等を行い、収支にも大きな影響を及ぼした。
- (2) 職員の資質向上をテーマに施設内研修を年8回行ったが、対面式の研修が出来ず、研修の効果については限定的となった。
- (3) 利用開始前の健康チェック・抗原検査を徹底し、外部からの感染症持ち込みに最大限注意した。

3. 活動目標と実施内容

- (1) 利用者個々の利用目的を把握・共有し、より満足いただけるよう個別性の高いサービスを提供した。
- (2) 介護職員の人員不足によるショートステイ一時休止に伴い、利用者への迷惑が最小限になるよう事前の通知や他施設の利用推奨などを行った。
- (3) 施設内研修を年8回開催し、職員の資質向上に取り組んだ。
- (4) デイサービスとの相互利用者については、送迎時間なども含め一貫したサービス提供を行い、利用者及び家族の負担軽減に努めた。
- (5) 利用開始前の体調確認を徹底し、受け入れ時に別室での抗原検査を実施した。

Ⅲ デイサービス

1. 事業方針への対応

新型コロナウイルスの5類感染症移行後も送迎時の体調確認とマスク着用を徹底し、感染症の持ち込み防止に努めた。

介護報酬改正に向け適切な対応が出来るよう情報収集に努めた。

2. 重点課題への対応

- (1) 送迎時のベッドサイドでの介助や送迎時間の時間指定対応など、利用者本位のサービス提供に努めた。
- (2) 介護報酬改正に向けて各種説明会・研修会に参加し、情報の収集と確実な対応に取り組んだ。
- (3) 体験利用者の情報共有を徹底し、細かな対応を行うことで利用へと繋げた。

3. 活動目標と実施内容

- (1) 体験利用者の情報を職員全員で共有し、安心感を持っていただくことで、高い確率で実利用へと繋げた。
- (2) 原則として全利用者にマスク着用をお願いし、感染症の蔓延防止に努めた。
- (3) 利用者や家族の要望に沿えるよう、可能な限りフレキシブルな送迎対応を行った。
- (4) 施設内研修を年8回開催し、職員の資質向上に取り組んだ。
- (5) 送迎時の体調確認及び検温を徹底し、感染のリスクがある方は利用の自粛や施設内での個別対応を行い、他利用者への感染拡大防止に配慮した。
- (6) ショートステイ休止によりデイサービスとの相互利用者の利用離れにつながらないように、利用者の情報収集や柔軟なサービス提供に努めた。

IV ケアハウス

1. 事業方針への対応

入居者一人ひとりの意向を尊重し、それぞれにご満足いただける「住み良い我が家」の提供に努めた。

継続的な外出自粛の呼びかけとともに、外部からの面会規制（少人数・短時間等）など自立型施設の制約の中でも感染症蔓延防止に努めた。

2. 重点課題への対応

- (1) 入居者の急変時に適切な対応が取れるよう、本人や家族との日常的な情報交換を行った。
- (2) 外出自粛に加え面会の短時間・少人数化を呼びかけ、入居者の健康管理に努めた。

3. 活動目標と実施内容

- (1) 入居者が気兼ねなく相談できるよう、職員側から積極的に声かけを行った。
- (2) 入居者の身体レベルの低下を正しく把握し、適切なサービス利用や早期の異常発見に努めた。
- (3) 入居者同士の関係性に注意し、些細な行き違いが大きなトラブルへと発展しないよう配慮した。
- (4) 入居者の体調確認を密に行い、体調のすぐれない方は居室での食事を行うなど感染予防に配慮した。

- (5) 施設入口に体温計と消毒薬を設置し、入館前の検温及び手指消毒を徹底すると共に、入館者には入館証を渡し「検温済」であることを示した。

V ケアプランセンター

1. 事業方針への対応

利用者にとって最善の対応を念頭に確実にかつ公正なケアプラン作成を行った。
新型コロナウイルス発生に伴う行政の臨時的な措置を正しく把握し、利用者に不利益が生じないよう適切な業務遂行に努めた。
また、いきいきセンターや介護事業所との連携を強化し、困難事例に対しても最後まで誠意ある対応を行った。

2. 重点課題への対応

- (1) 社会人、福祉人としての倫理感を明確に持ち、施設の代表として外へ出ているという認識を徹底した。
- (2) マスク着用はもちろん体調管理を徹底し、職員が感染症の媒体にならないよう努めた。
- (3) 要支援者を積極的に受け入れることでいきいきセンターとの連携を密にし、いきいきセンターからの要介護者の紹介率アップにつなげた。

3. 活動目標と実施内容

- (1) 施設併設の強みを活かし、困難事例や緊急のサービス利用に取り組むと共に、福祉用具の一時的な無償貸与も行った。
- (2) ご自宅へ訪問する際には身だしなみを整えるなど、利用者に対して失礼がないよう接遇マナーを徹底した。
- (3) ケアマネジャーの入れ替わりに伴い、訪問時期・回数、記録や同意の有無などに不備が無いよう、法令順守を再徹底した。

事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人はなみずきの会
理事長 川崎 健司